2022 年 5 月 13 日

2022 年 12 月期　第 1 四半期の連結業績の概要について

□連結業績について

ヤマハ発動機株式会社の当第 1 四半期連結累計期間の売上高は 4,817 億円（前年同期比 376 億円・8.5%増加）、営業利益は 401 億円（同 82 億円・16.9%減少）、経常利益は 457 億円（同 71 億円・13.5%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は 326 億円（同 92 億円・21.9%減少）となりました。なお、当第 1 四半期連結累計期間の為替換算レートは、米ドル 116 円（前年同期比 10 円の円安）、ユーロ 130 円（同 2 円の円安）でした。

売上高は、新型コロナウイルス感染症拡大影響からの回復により、先進国での船外機販売やインドネシアなど新興国での二輪車販売が堅調であったことを受け、増収となりました。一方、営業利益はアルミ・鉄をはじめとした原材料価格の高騰や米国向けコンテナ不足などによる物流費増加の影響があり、減益となりました。

□セグメント別の業績について

【ランドモビリティ】

売上高 3,154 億円（前年同期比 250 億円・8.6%増加）、営業利益 122 億円（同 77 億円・38.9%減少）となりました。

二輪車事業では、各国の新型コロナウイルス感染症対策推進および規制緩和により、需要は回復傾向となりました。当社の販売台数も、インドネシア・ブラジル・欧州などで増加したことで増収となりました。営業利益については、原材料価格の高騰に加え、半導体等の部品調達遅れでプレミアムモデルの供給が不足し、モデルミックスが悪化したことにより減益となりました。

RV（四輪バギー、レクリエーショナル・オフハイウェイ・ビークル、スノーモビル）では、Wolverine RMAX シリーズの販売は堅調であったものの、原材料価格や人件費高騰の影響を受け、増収・減益となりました。

電動アシスト自転車では、半導体・電子部品供給逼迫により欧州向け e-Kit パーツの供給が不足したことやバッテリーのリコールに伴う製品保証引当金を計上したことにより、減収・減益となりました。

【マリン】

売上高 1,087 億円（前年同期比 112 億円・11.4%増加）、営業利益 204 億円（同 10 億円・5.4%増加）となりました。

船外機では、船腹やコンテナ不足による船積み遅れは継続していますが、生産・供給課題への対応により 100 馬力以上のモデルの販売が増加しました。ウォータービークルでは、部品等の供給不足により、販売台数は減少しました。その結果、マリン事業全体では、増収・増益となりました。

Web ▶ JPN https://global.yamaha-motor.com/jp/
Global https://global.yamaha-motor.com/
Yamaha Media Center ▶ JPN https://www.mynewsdesk.com/jp/yamaha-motor
Global https://www.mynewsdesk.com/yamaha-motor

ヤマハ発動機株式会社 Yamaha Motor Co., Ltd. コーポレートコミュニケーション部 広報グループ PR Group, Corporate Communication Division

本社 〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500 TEL: 0538-32-1145 FAX: 0538-37-4250
Headquarters : 2500 Shingai, Iwata, Shizuoka, 438-8501 Japan Tel : +81 538 32 1145 Fax : +81 538 37 4250

東京 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1 丸の内マイプラザ 15 階 TEL: 03-5220-7211 FAX: 03-5220-7233
Tokyo Office : Marunouchi My Plaza, 15F 2-1-1 Marunouchi, Chiyoda, Tokyo,100-0005 Japan Tel : +81 3 5220 7211 Fax : +81 3 5220 7233

【ロボティクス】

売上高 262 億円（前年同期比 9 億円・3.2%減少）、営業利益 37 億円（同 6 億円・19.7%増加）となりました。

サーフェスマウンター市場は中国で前年ほどの勢いはないものの、引き続き堅調に推移しました。前年からの受注残を抱えながらも、電子部品不足の影響を受け減産した結果、減収となりました。一方、半導体装置市場は前年同期比で拡大し、増収となりました。また、前年実施した値上げ効果で限界利益率が改善したことから、増益となりました。

【金融サービス】

売上高 128 億円（前年同期比 15 億円・13.4%増加）、営業利益 44 億円（同 3 億円・6.7%減少）となりました。

ブラジルや欧州で販売金融債権が増加し、増収となりました。前年は一過性要因として貸倒引当費用の減少があり、前年同期比では減益となりました。

【その他】

売上高 186 億円（前年同期比 8 億円・4.7%増加）、営業損失 6 億円（前年同期：営業利益 12 億円）となりました。

ゴルフカーで高価格帯商品の販売が増加し、増収となりましたが、原材料高騰などで営業利益は前年同期比で減益となりました。

□通期連結業績の見通しについて

2022 年 12 月期通期の連結業績予想につきましては、2022 年 2 月 10 日の前期決算発表時に公表した予想（売上高 2 兆円、営業利益 1,900 億円、経常利益 1,900 億円、親会社株主に帰属する当期純利益 1,300 億円）を変更していません。

また、通期の為替レートは、米ドル 113 円（前期比 3 円の円安）、ユーロ 128 円（同 2 円の円高）の前提から変更していません。